

事業所名		わらび学園			支援プログラム			作成日		2025 年		3 月		28 日	
法人（事業所）理念		すべての子どもが、自分らしく彩り豊かな人生を送れるよう、持てる力を信じ、育ちを支えます。													
支援方針		○お子さん一人ひとりの意思を大切にし、達成感や満足感を引き出せる療育を行います。 ○夢中になって楽しめる遊びや活動を通して、自覚性・社会性・表現力・レジリエンスを養います。 ○保護者の不安を取りのぞき、喜びを持って子育てができる暮らしを支えます。 ○関係諸機関と連携を図り、地域福祉における役割を担います。 ○お子さんの発達段階や特性に応じた、地域での仲間づくりを支援します。													
利用時間			8 時	30 分	から	16 時	30 分	まで	送迎実施の有無		あり		なし		
		支 援 内 容												日課（一例）	
健康・生活		○健康状態の維持・改善 ○生活リズムや生活習慣の形成 ○基本的な生活スキルの獲得			・連絡帳等による体温確認、登園時の表情、全身チェック、またできる児には聞き取り等により健康状態を把握し、変化に気付きます。なお、意思表示が困難な児については、その健康状態の把握に極めて留意します（家庭からの健康情報も活用します）。また、水分補給や手洗い、随時の検温、マスク着用等を通して園生活における健康を担保し、活動内容を計画すると共に、病気の予防や安全への配慮を行います。 ・児に応じて体調カードを活用し、お子さん自身が自分自身の体調に気付けるよう促します。 ・体温が外気温に左右される児にはクーリングを行い、また、体力が脆弱な児には必要に応じて休息を取り、装具着用児においては移動の際等安全面にも十分配慮します。 ・日課における一連の流れを覚え、見通せるよう、大きく流れは変えず通年で通り組みます。 ・朝の会、帰りの会でのそれぞれの時間に応じた挨拶を大切に、始まりと終わりや相手への意識化へとつなげます。 ・食事、排泄、睡眠、着脱、清潔、羞恥等スモールステップにて取り組み、基本的な生活習慣の獲得につなげ、ひとりでできることを増やします。 ・自園調理による給食、おやつを提供し、メニューを視覚、嗅覚、触覚で楽しみながら、児に応じて食事形態、食器具の種類、環境を調整し、児に合わせた姿勢、咀嚼、嚥下で食事が摂れるよう配慮します。 （例：ミキサー食、さざみ食、矯正箸、クリップ付スプーン、箸、カットアウトテーブル等）。 ・偏食に関しては、それぞれの好みの味と形状を把握し、家庭と連携を取りながら、まずは無理の無い一口から始め、信頼できる大人が寄り添い励ましながら慎重に進めていきます。 ・クッキングでは、食材に手を加えることを通し、食べたり作ったりする楽しさやお友だちと共同する喜びを感じ、食べることへの意識、意欲につながるよう取り組むと共にお手伝いへの関心が育まれるよう働きかけます。 ・空間、時間、手続きを構造化し、主体性の向上と情緒の安定につながるよう、個々に応じた環境設定を行います。									AM～ ☆登園（朝の所持品の始末、手洗いうがい、排泄、水分摂取） ☆朝の会 ・朝の挨拶、日付、日課確認、お返事、人数確認、歌遊び、紙芝居 ☆運動活動 ・リトミック体操、バルーン、トランポリン、各種感覚統合訓練教具、マット まねっこ体操、ゴム飛び、梯子、サーキット（巧技台、トンネル平均台等）、スクーター、ビーナッツボール、オッピー、三輪車 ☆感覚活動 ・ベグ差し、ピンチ、型はめ、円柱し、マッチング課題等、新聞紙遊び、楽器、各種粘土 ☆散歩・グラウンド ・グラウンド大型遊具、砂場、ジャングルジム、太鼓橋、ブランコ、交通ルール ☆制作（表現） ・作品作り（のり、はさみ、シール、線書き、色塗り、お絵描き等） PM～ ☆給食（食器具操作、マナー、ルール、挨拶）、食育、様々な食材を口にする ☆一斉活動 ・ゲーム、フォークダンス、ミュージックケア等 ☆個別課題活動 ・机上活動（プリント、色ぬり、書字、数字、オセロ、かるた） ☆おやつ ・手づくりおやつ、マナー ☆帰りの会 ・一日の振り返りと明日への意識	
運動・感覚		○姿勢と運動・動作の向上 ○姿勢と運動動作の補助手段の活用 ○保有する感覚の活用 ○感覚の特性への対応			・道具や周りの環境に応じて自分の身体や手指を使い、意図的に動ける喜びを感じられるよう様々な活動を提供し、基本的技能の向上につなげます。 ・姿勢保持が難しい場合、以下の通り児に応じた配慮を行います。 身体機能面：椅子（股当て、傾斜、肘掛等）、大人の支え 過敏さ：イヤーマフ、手袋等 衝動性：座って楽しめる遊具、カード等 不注意：興味関心に添った活動内容等 ・粗大運動遊びや微細運動遊びを通し、視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有覚を統合的に活用し、姿勢保持や力加減、バランス感覚の向上、また操作性、巧緻性、手指機能の段階的な獲得につながるよう取り組みます。 ・自然の豊かな刺激を取り入れ、五感の刺激となるよう、園内各種活動の他、散歩、大型遊具等屋外活動を積極的に取り入れ経験の幅を広げます。 ・保有する感覚器官を用いて状況把握ができるよう、眼鏡等の補助器具を効果的に活用します。 ・偏りに対しては、受け入れの良いものから始め、徐々に全体への汎化につなげていきます。 ・特性に応じて、過敏鈍麻に対処したり、部屋の使い方を工夫したりして、一人ひとりが安心して過ごせるよう配慮します。										

本人支援	認知・行動	○認知の発達と行動の習得 ○行動障害への予防及び対応 ○対象や外部環境への適切な認知と適切な行動の習得	・児の現状の認知特性に配慮し、集中しやすい場所、大人の配置等、それぞれに応じた環境調整を行います。 ・障害特性毎の感覚を活用し、それぞれにとって必要な情報となるよう、色、絵、音、写真等を使用して、課題を提示し、スモールステップにて認知機能の発達を促します。 ・課題や日課を大人やお友だちと、共有、共感、言語化することで、概念の形成や定着を図ります。 ・各種課題に取り組む中から、大小、軽重、上下左右、数、時間等の時間認知、空間認知、数概念、共感認知を形成することで、場に合った適切な行動が取れるよう働きかけます。 ・ルール理解、順番理解、指示理解、他者意識等を通して、記憶力、弁別力、想像力、自分で考えて行動する力等を養うとともに、日課に添った課題を繰り返し行う中で、見通しを持ち自信を持って行動できる力の獲得を促していきます。 ・環境理解、自己理解を育て、課題に取り組む力（座る、待つ、見る、集中する、頑張る等）を培い、褒め認めることで失敗したとしても「まあいいか」と折り合いがつけられるレジリエンスの醸成に取り組みます。 ・感覚や認知の偏りやコミュニケーションの難しさから生じる行動の気かりさに関しては、行動前行動後の環境状況を丁寧に掘り起こし、原因要因を探るとともに、一人ひとりの困り事を未然に防げるよう認知、感覚、行動特性に応じた対策を講じます。 ・集団活動においては個々の参加できる方法（部分的参加等）を尊重し、一人ひとりに合った参加過程を経ることで、無理なく集団参加につなげられるよう留意します。	
	言語 コミュニケーション	○コミュニケーションの基礎的能力の向上 ○言語の受容と表出 ○人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ○言語の形成と活用 ○コミュニケーション手段の選択と活用 ○状況に応じたコミュニケーション ○読み書き能力の向上	・言葉やコミュニケーションの礎となるよう、読み聞かせやお話等を通し、物や事象、事柄に対する様々なイメージを児の中に豊かに蓄えていきます。 ・相手に伝えたいという思いが培えるよう、生活場面をわかりやすく安心したもの（人、集団規模、環境等）にし、非言語コミュニケーションも含め、その兆しや芽生えが伺えた場合は大人が、その状態に即時対応を常とすることで、意思表出の定着を図っていきます。 ・発達段階や特性に合わせて、絵カード、サイン、指差し、言葉等で自らの思いが伝えられるような環境作りに努め、経験を積み上げます。 ・ことばを使うことや気持ちや行動の言語化を日常的に習慣化することで、社会性、感情制御、集団適応能力、様々な認知力の発達に結び付けていきます。 ・大人が場に応じた言葉を知らせ、一緒に言ってもらうこと等を通して、適切な言葉遣いを知らせたり語彙数の増加を促したりしていきます。 ・テキストや文字カード、絵本に親しみ、ひらがなや数字への興味を育むと共に、コミュニケーションの手段として使用できる概念であることを日課活動や日々の関わりを通して知らせていきます。 ・大人が物を介して遊ぶだけでなく、高い高いや手遊び、くすぐりっこ等、物を介さない遊びを行うことで、大人と遊ぶことに対して肯定的な経験を積み上げていきます。 ・書字への苦手意識を持たないよう、題材は好きなものや自分の名前等、大いに褒めながら、児の身近で興味のあることから取り組んでいくように心がけます。	
	人間関係 社会性	○アタッチメント（愛着）の形成と安定 ○遊びを通じた社会性の発達 ○自己の理解と行動の調整 ○仲間づくりと集団への参加	・規則正しい毎日の生活を児と一緒に継続的に営み、スキンシップを織り交ぜながら、慈しみ大切にすることで、情緒的な絆（愛着）を育んでいきます。 ・安心できる大人との関係を基盤として、周りの物、人、自然等の環境への気付きを促し、興味・関心の対象を広げ、社会性や集団適応能力、種々の概念形成につなげます。 ・個々の言葉、行動等から、興味、関心を知り、それに合った声かけをしたり、物、絵本などを準備したりし、遊びに没頭できる環境を整え、経験を積み重ねます。 ・発達に応じた遊びを通してルールや順番の理解、切り替え、周りに合わせた行動を引き出していきます。 ・協力する遊びを通して、相手の考えを尊重すること、役割を果たすこと等、社会的ルールの獲得を目指し、遊びそのものが協調性や自己表現の機会となるよう配慮していきます。 ・一人遊びから併行遊び、大人が介入しての連合的な遊び、共同遊びへと遊びの段階を広げ、社会性の発達を育みます。 ・日課活動等を行うSSTにて、対人スキルの定着を図るとともに、気持ちや情動の調整ができるよう働きかけ、提示モデルの模倣により、汎化につなげていきます。 ・生活場面においてできること、できないこと等、自分の特徴を理解し、できない場合は周りに援助要請ができるよう、その方法について場面を通して知らせていきます。 ・個々に合わせた理解しやすい手順やルールを活動の中に取り入れ、達成感の持てる無理の無い集団参加を促していきます。 ・一人の活動よりも、他児との交流が楽しいと思えるよう、大人がやりとりや遊びを仲介し、仲間意識の醸成を図っていきます。 ・他児と共に目標が達成できたという喜びにつなげるよう、観察力や計画性、問題解決力や忍耐力を養っていきます。	

家族支援	面談や電話、連絡帳等で就学関係を含めた子育て上の課題の聞き取りを行い、保護者の方に寄り添いながら、お子さんの発達段階に応じた助言を行い、実行可能な支援について話し合っています。また、保護者研修会では外部講師を招き、講演内容を子育てに生かしていただいています。また、保護者の方の就労等の都合により、必要がある場合には延長支援を行っています。	移行支援	児の発達段階に注視し、機を逃さず地域での保育や教育につなげていきます。移行に関して園児のアセスメントの観点での移行先（保育園・こども園・幼稚園）からの訪問の受け入れを行うとともに、移行先に出向き園児の発達段階や状況について情報共有、助言を行っています。就学に関しては、適正な学びの場の保障という点で小学校と連携しています。また、地域の一員として地域の獅子舞、祭り、催し物に参加し、地域交流を図っています。加えて、地域の同年齢児とのふれあいの機会として近隣のこども園と交流保育を行っています。
地域支援・地域連携	園児やその家族の状況に応じて、関係諸機関と定期的な会議を企画、招集、開催し、喫緊の課題や必要な視点等について確認し合い、より適切かつ具体的な対応が取れるよう連携を取っています。また、公園や施設等に出向き、地域の中で活動するとともに公共のマナーを知り経験しています。見学については各種団体を受け入れ、施設の情報発信を行っています。	職員の質の向上	各種外部企画の様々な研修や講演会等に参加し、資質と専門性等の担保や対応力の強化に強めています。また園内職員研修として講師を招き、実情に即した内容の講演を通して、知見を深めたり、ケース検討の際のスーパービジョンを療育に反映させたりしています。
主な行事等	◇季節行事：春…こどもの日の集い・芋苗植え 夏…七夕まつり・プール遊び 秋…遠足・芋掘り 冬…餅つき・クリスマス会・節分・ひな祭り・卒園式 ◇その他行事：誕生会・避難訓練・発育測定・交流保育・自由参観・療育懇談会・ふれあい活動・園外あそび・なかよし会食・ビュッフェ会食・クッキングの日・保護者会・保護者研修会・健康診断・歯科健診・親子教室		